

京都市文化観光資源保護財団

会報

No.18



もくじ

(隨 感) 東寺の塔と密教のほとけ

京都市立芸術大学教授 田村 隆照 P 4 ~ 6

シリーズまもる⑯ 八瀬放免地踊の伝承

八瀬童子会々長 山本 六郎 P 6 ~ 7

会員だより

P 8 ~ 10

保護財団の活動

P 10 ~ 12

会報題字 理事長 佐伯 勇

会

報

No.18

52. 10. 9

編集・発行

財団 京都市文化観光資源保護財団

法人 京都市左京区岡崎最勝寺町京都会館内

〒606 電話 075-771-6051

日本のふるさと・国民の宝

◆京の文化遺産を 守りましょう◆

◇京都市文化観光資源保護財団は皆様方からの暖かい寄附金をもって、京都の貴重な文化財、伝統行事、芸能並びに文化財周辺の景観をまもる事業をおこないます。

◇ご協力いただいた寄附金は京都市文化観光資源保護基金として京都市が責任をもって管理し、基金から生ずる淨財はすべて保護事業に充てることになっています。

あなたも文化観光資源の保護者として

金額の多少にかかわらずご協力をお願いします

ご協力いただく方々へ(募金要項)

1. 名 称

京都市文化観光資源保護基金寄附金

2. 税の減免

この寄附金は京都市文化観光資源保護基金として、京都市が直接管理運用しますので、京都市に寄附されることになります。

* 法人の場合——地方公共団体に対する寄附金として全額損金に算入されます。
(法人税法第37条第3項第1号)

* 個人の場合——地方公共団体に対する寄附金として寄附金控除が受けられます。
(所得税法第78条)

3. 募金協力者について

* 50万円以上の寄附者は、京都市の篤志者として京都市から表彰されます。

* この財団では、次の基準により財団の会員として遇します。(会員の財団の諸事業に参

加することができ、会報の配布をはじめ、文化財関係事業の招待がうけられます。)

☆特別会員

法人の場合……50万円以上
個人の場合……10万円以上

☆普通会員

法人の場合……10万円以上
個人の場合……2万円以上

※上記の外、多少にかかわらずご協力いただいた方は賛助員として、当財団の諸事業に参加することができます。

4. 申込・払込方法

所定の寄附金申込書により財団事務局までお申込み願うか、または直接持参・現金書留郵便・京都市指定金融機関及び京都市収納代理金融機関へお払込み下さい。

ご協力ありがとうございました

寄附者芳名録(敬称略)

52.6~52.9

一法 人一

[特別会員]

* 山中株式会社 〈50万円〉

[普通会員]

京都絞商事株式会社 〈10万円〉

[賛助員]

* 合名会社三法堂 〈7万円〉

* 福寿染工株式会社 〈3万円〉

* 株式会社木下管工業 〈1万円〉

* ヤマカワ株式会社 〈7千円〉

一個 人一

[特別会員]

* 相 生 和 楽 〈12万円〉

[普通会員]

* 竹 内 孫兵衛 〈5万円〉

* 今 井 栄 一 〈3万5千円〉

* 丸 山 末 棒 〈2万8千円〉

* 大 橋 経治郎 〈2万6千円〉

* 今 井 敏 夫 〈2万1千円〉

* 狩 郷 修 〈2万1千円〉

[賛助員]

* 岡 本 保 止 〈1万8千9百9拾9円〉

* 村 田 陶 苑 〈1万5千円〉

* 三 浦 俊 良 〈1万5千円〉

* 広 岡 一 〈1万5千円〉

* 原 山 喜 代 〈1万5千円〉

* 有 本 安喜子 〈1万4千円〉

* 堀 池 嘉 一 〈1万3千円〉

* 梅 岡 大 祐 〈1万3千円〉

* 今 井 憲 一 〈1万2千円〉

* 小 林 多三郎 〈1万2千円〉

* 柴 田 嘉 津 〈1万1千円〉

* 児 玉 誠 〈1万1千円〉

瀬 川 敏 強 〈1万円〉

土 手 修 〈1万円〉

* 田 村 芳 子 〈1万円〉

* 別 所 とみえ 〈8千円〉

* 吉 田 篤 信 〈8千円〉

* 入 山 敦 子 〈7千円〉

* 上 田 長 雄 〈7千円〉

* 近 藤 吉 男 〈7千円〉

* 吉 住 幸 一 〈7千円〉

* 西 村 弥五郎 〈6千6百円〉

* 友 田 弘 治 〈6千円〉

徳 岡 邦 夫 〈5千6百3拾3円〉

* 内 田 和 正 〈5千円〉

* 伊 藤 重 和 〈4千円〉

* 村 井 進 〈3千3百円〉

尾 池 恵美子 〈2千円〉

中 川 忠 司 〈2千円〉

(*印は追加寄附の篤志者、寄附金額は累計額)

表紙写真解説

■鞍馬の火祭 (由岐神社)

この祭りは、わが国火祭の中でも屈指のものでその起源は明らかでないが、平安時代御所内の祭神をこの地に勧請するにあたりかがり火をたいて祭神をお迎えしたという故事によるものと伝えられる。

篝火点火(午後6時)、松明(午後7時)

神輿渡御(午後9時半)

(隨 感)

東寺の塔と密教のはざめ

京都市立芸術大学教授 田 村 隆 照

高架になっている新幹線や近鉄の電車が京都駅に近づいて徐行をはじめると、あるいは発車して間もなく南西の方向に、区画されたみどりから生えたかのように印象的な五重塔を望むことができる。

平安遷都と共に計画造寺された東寺、西寺のうち江戸時代初期再建されたのが東寺の塔である。いまも毎月二十一日は「弘法さん」とよばれ、北野天満宮の「天神さん」と同じく京都における最大の規模の出店と共に、京都の人たちの心ふかくきざまれた場所であるが、何よりもおどろかされるのは平安造営当初そのまゝの寺域が土壌によって守られていることである。同時に官営の工事として造営された西寺がその寺跡を残すのみでありひとり東寺がその北の部分を学校その他の新しい建築に変貌しているとはいえ寺域に大らかな雰囲気を伝えている不思議さは、東寺の伽藍をたづねるもの誰もがいたく感じるであろう。それもこれも弘仁十四年（823）東寺が造営なからで朝廷から空海に下賜され真言密教の寺院として盛衰を繰りかえしつつも、その根本道場として長く法燈を伝えたからである。とくに鎌倉時代以後天災や戦乱に際し時の権力者たちの庇護



密教美術（刷刻）を今日に伝える
教王護国寺（東寺）

は大きかったというものの、弘法大師空海の住房をあらためてその肖像を安置した御影堂を中心とする庶民信仰もこの寺を支えた力であったといえよう。

いまここで東寺の歴史を辿るスペースはないが、信仰的に創建当初の精神が受けつがれている堂塔に密教の空間を考えてみよう。

普通、寺院の場合は金堂や塔が伽藍の中心をなしており、その位置関係で飛鳥時代から奈良時代にかけての伽藍様式を考えその寺の性格を考えることができるほどの重要なものである。

即ち釈迦の遺骨（舍利）に対する信仰がストゥーバ（塔）の建立であり、經典の教主としての釈迦如来や他の如来に対する信仰がその像を安置する金堂である。そのいざれがより中心的であったかということはその寺の建立年代を考えることができるのである。

これに対して密教では塔を舍利安置をするだけの建物とはしない。何回かの再建を繰りかえしている高野山の壇上伽藍においても塔は大日如来を中心とする五仏を安置し、

教理の象徴として考えられており、また高野山の象徴とされる所以でもある。その名称を多宝塔と誤用している石山寺（滋賀）も大日塔と呼ぶべきものであり、高野山金剛三昧院の塔も五仏塔である。これは五智塔ともよべるものであろう。

江戸初期寛永年間の復興ながら創建時の古式を伝えた東寺の塔も五仏や菩薩を配する五仏塔

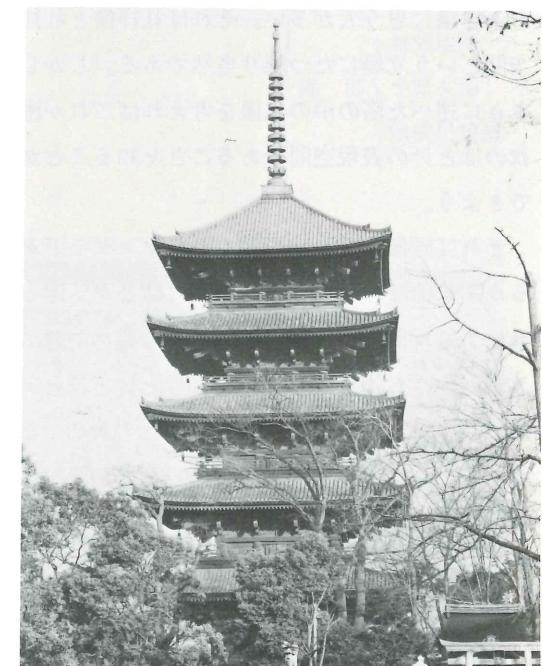
であり、奈良時代以前の塔とは明確にその性格を異にする。また京都に現存する最古の塔としては平安時代天暦五年造立の醍醐寺五重塔がある。この塔内には仏像は安置していないが、心柱を覆う板や四天柱その他に金剛界マンダラと胎藏法マンダラが描かれ、まさしく両部曼荼羅塔である。また空海が東寺を賜わる前に住した高雄山寺現在の神護寺には平安時代前期の五大虚空蔵を安置した宝塔がある。現在のものは昭和に建立された塔であるが、空海の弟子真済が承和年間造立したこの五軀の像を安置したのも宝塔院と名づける塔であった。これら五大虚空蔵は堂々たる木彫乾漆像で密教の理想である即身成仏を觀想するにふさわしい肉身をもち、横一線におかれた配置はおそらく創建当初とは違ったものであろうが、この塔内に入ると平安時代前期特有の仏像の重厚な靈氣を実感することができる。いまひとつ平安時代前期の彫刻山科安祥寺の五仏も五仏宝塔に安置されていたものであるがいまは国立京都博物館に保管されている。彫刻の陳列室とはいえ大日如来を中心にしてかつて塔内にあったと同じ配置の工夫がされており、この五仏の前に立つと他の仏像のある空間を忘れて五仏の莊重な量感のひびきあいをあたかも塔内のそれのように感じることができるのである。

このように密教の塔は教理そのものを象徴するマンダラや仏像が表現されており、単なる礼拝の対象としてではなく、そこに造立安置されているところに大きい意味をもつものである。

東寺の五重塔は総高55メートル（日本における最大の塔）であるが奈良時代後期（天平）の伽藍配置からいえば、東塔の位置にあたり、西

塔の位置には塔ではなく、これ又密教の重要な道場である灌頂院がある。空海の入唐修学の寺、長安（現西安）の青龍寺にならってつくられたものといわれ、これも何回かの破損修理を経て江戸時代初期に復興された建物である。一般的には正月八日から十四日までおこなわれる後日御修法（ごしちにちみしゅほう）の道場として有名であるが、勿論これ以外にも重要な法儀である灌頂のために使われる堂で、金剛界マンダラと胎藏法マンダラがかけられるような両側壁面やその前に敷マンダラをおいたり修法するための大壇がつくられている。

この灌頂堂もまた単なる礼拝のための空間ではなくマンダラをよりどころにしてそこに参入し融合する空間であるということを理解しなければならない。マンダラを簡単に説明するこ



現存古建築のうち最高を誇る方三間、本瓦葺、高さ55m余りの塔内部八方の板壁には真言八祖、扉には護法八天等が極彩色で描かれている。

とは困難ではあるが、ひと口にいえばはるか向うにあるほとけの世界をあらわしたものではなく時間、空間を超越した理念の世界であり、私たちの心の中に開かれる可能性をもった世界である。

したがって私たちの世界とマンダラの世界は同一のものであるという観想の確証を得ることが密教のほとけやマンダラを知る第一歩であり、それが空海の教えである即身成仏の実践につながるのである。このようなマンダラを仁王經とか金剛頂經によって立体的に表現したのが講堂の諸像である。

空海によって計画され造立された真言仏堂の諸像でその完成はその入寂後三年であったといわれる。文字通り仏像が壇上に林立する異様さを不思議に思う人が多い。それは礼拝像と礼拝空間という立場にたつ限り当然である。しかしさきに述べた塔の中の仏像を考えればこれが密教のほとけの表現空間であることを知ることができよう。

それは画像であれ、彫像であれマンダラであるからに他ならない。仏像との対話とか仏像と共にある空間ということを前号の会報の随想でふれたが密教のほとけの場合はほとけとほとけのひびきあい、その関連を知ることも大切であり、その上にはじめてほとけと自分とのひびきあいを感じことになるのである。



シリーズ まもる⑯



八瀬童子会 会長 山 本 六 郎

お盆もすぎ八月中旬になりますと、赦免地祭の本格的な準備に入り赦免地踊の音頭の太鼓の音や踊の拍子木の音が毎夜ここ八瀬の里に響き渡ります。

赦免地踊の由来は延元元年（1336）後醍醐天皇が叡山に遷幸されたさい、八瀬童子が駕輿丁を承り、無事延暦寺に供奉申し上げたその功により年貢所役一切御免の御綸旨を賜り、以後特權として受け継いできたところ、宝永四年（1707）に叡山との間に土地争が起り老中秋元但馬守喬知の裁断でこの権利が護られ、喜んで早速御札に参上したが但馬守は、すでにこの世の人ではなかった。歎き悲しんだ村人たちは、氏神天満宮の境内に公を祀り、綸旨宮（秋元神社）と称し毎年10月10日（もとは9月10日）祭礼を行い踊をもって公の靈を慰め260年後の今日に及んでいます。

赦免地踊は童子会すなわち八瀬土着の人々の

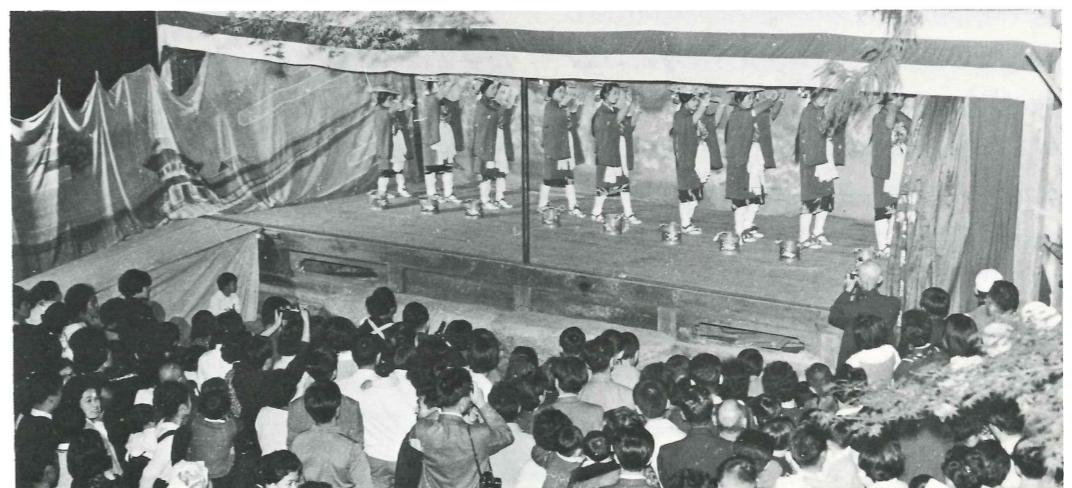
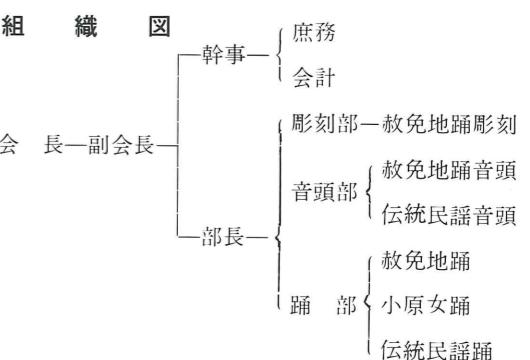
行事であり、年令順に上36人を大家といい、以下十人頭、小口と云った組織が有り、この踊りを支えてきました。十人頭と云ふ十人土は赦免地踊の奉行役であり、小口は四人おり灯籠一对に一人がつき、16人の夥人を指導して製作にあたり、それぞれ一对づつ都合8個製作する。夥人は青少年の役で年令順に夥る部分が決っています。図柄は武者、動物、花鳥絵などを赤紙に透し彫にした精巧な、切子灯籠で女装した青年に被かれて踊を華やかに彩るのであります。踊子は十二・三才の小女が友仙の小袖を着て花笠をかぶって音頭に合せ踊る姿は郷土芸能の粹であります。

時代の流れと共に旧来の制度をもっては将来伝統芸能の伝承に困難を生ずることを配慮し、昭和35年に八瀬学区民全員参加の出来る様八瀬童子会を結成し旧来の制度を改めました。

組織図の通り各部長には永年この道に精通した方々の指導をもって古来より伝わる豊かな文

化の保存と伝承に努力致しています。

保存会の運営に当たりましては古老の方々の御支援御援助と各部長の指導のもとに、御理解ある青少年の方々と楽しく伝承に励んでいますが、各行事の衣裳については今日迄は、特定の家に有る衣裳を借用致していましたが、其の破損が甚しく早急に保存会所有の衣裳を新調する必要にせまられています。何分多額の費用の事で役員一同苦慮致していますので府市並に保護財団の絶大なる御援助を賜りますようお願いする次第であります。



会員だより



京都に住み

京都市中京区三条小橋 藤田善三

(前 京都紫明ライオンズクラブ 会長)

千年の都京都、私もこの都に生を受け50年、三条通の鴨川と高瀬川、三条大橋と小橋の間に少年期をすごし今すきし方を思い浮べる時、全く想像も出来なかつた現在の変化に驚く、周囲には名所史跡も多く残っているが、往時通りは未だ人、車共に通りに少なく、時たま牛馬が荷を積んで大津より店先に来り、それが井戸戸の嗅いをかいで一步も進まず、馬方が水を所望されたのんびりした風景だった。

現在はビルが立並び、全く静かなよき時代の姿は消えた。こゝに先祖より住居を構える我々京都人は、常々この素晴らしい土地に付いては誰れもが口には出さぬが心には何時も誇りと共に、おだやかな安らぎを感じているに違いない。反面あまりにも身近にあるのか、こゝにある文化財に対してはまだ多くが無感心である様に思われる。毎年京へ京へと尋ね来る人は異常な程であり、かえってこれらの人々が京都の土地の土地柄と存在する古い遺産に対して、直接永住し、いつも身近に感じている我々と、あこがれて去って行く者との相違はあるが、異句同音に讃詞をおくる。

勿論京都は、他の都市と同様めぐるましくすべてを変え、漸次近代都市的なセンスを多分に取入れながら、尚昔ながら独特のものがその底に長く流れ古き時代のよきが、文化財が、他所ではみられぬ微

妙なふんいきを持ち、旅人の心をうち彼等にそれがこたへられぬ魅力となっているのだろう。この今まで先人より受け継いだ数多くの文化財、まだ眠り続けている遺産を如何に守り、いかに保存し、後世の人々に伝えるかは、今我々の務めではないだろうか。我が国は及ばず世界より京都を訪ねる人々は其の時々何かを感じそれぞれの意志により財団へいくばくかを送って、是非遺産を守るたしにと関係者を感激させたと聞く。私も職業上特定されるが古く寺院とのつながりがある故に、深い関心をもち、わずかでも御力添をさせていただき度く思っているが、全市民が少しでも力を合せ、その上に、広く多くの人々の協讃を得られる様になれば、いまよりもずっと充分かつ適切な保存が出来よう——。これと共に自然に文化財を大切にしようとする気持が増々深まるのではないかと考へる。財団役職員の方々の御苦労を謝し、より有意義に文化財保護に全力をかたむけていただく事を御願申上ます。



10余年前の三条大橋附近、現在はビル化等で、東山への風景がかわった。

文化財特別参観 に参加して

京都市北区寺町通鞍馬口

原山喜代

何時の頃からか、私は美術工芸品の鑑賞が何よりの気分転換、無上の楽しみとなり、機会があると展覧会、発表会を見、また手許にある本を読むというより、むしろ眺めてきました。専門的な事は勿論何も分りませんが、もし好きなのを上げるといわれたら、どれが良いかしらなんて、およそ夢のようなことを考えながら、二度も三度も会場を往復して、一つ一つじっくりと見てまわります。解説があればこれ幸いと読みますし、世に評判の高い物は、近頃の鮮明なカラー図版で何度も見ていますが、やはり写真は写真で、今日の前にある実物は、絵画でも彫刻でも、息を止めて飽かず見入るほど迫力が感じられます。やがてそのうちに、学校で単に知識として覚えるのとは違い、忘れられない深い印象が心に残るようになりました。めったに外出しない代りには、新聞で展覧会などの予定を見ておいて、主人が行ってこいといってくれるのには、少々無理をしても見に行きます。

私のお寺の什物が重文に指定された頃から、文化観光資源保護財団の会報をいただくようになりました。そのおかげで今まで何度かあちら、こちらを参観させていただきました。こちらから希望して申し込む人たちの集りだけに、実に熱心な態度の方々ばかり、二時間という時間もあつという間に過ぎてしまいます。



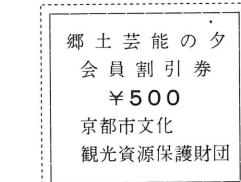
西本願寺 特別名勝虎渓の庭、

昨秋の紅葉の美しい南禅寺塔頭、南禅院、金地院（12月4日）この春の雪の中の大徳寺塔頭、黄梅院、徳禪寺（3月5日）など……。なかでも昨年10月9日の見学会には、大きな感銘を受けました。生憎小雨降る日でしたが、西本願寺の虎渓の庭は、大閻秀吉の桃山城から巨石を運び込み、庭石として縦横に配したというもので、折からの雨に濡れ、その美しさは圧巻でした。今のように機械のない時代に、石を選んで運搬することはどんなにか大変だったことでしょうか。いわゆる池泉回遊式の庭園とはまた違う力が見る者に迫ってきます。先頃朝の連続テレビ小説「火の国」の中で、主人公が京都の庭を見てまわるシーンで、一番に虎渓の庭が出た時、即座に「あれは西本願寺のお庭！」と叫んだことでした。また簾ノ内家燕庵の小袖石の趣き。利休居士がこちらへ譲られた時、交換条件として小袖三枚を所望されたとか。今も昔も二つとない物に対してはそれぞれに愛着がついてまわって、このようなエピソードが語りつがれているのでしょうか。お席の中は薄暗くて、外からはあまり見えませんでしたが、街中の建て詰まったところで如法通り維持していかれるの

は、至難のことであろうと思われました。多勢が二班に分かれて拝見させていただき、季節のお菓子とお茶を頂戴し、しっとりと落着いた感銘を受けて家路につきました。

今年の夏は、僅かばかりの寄附で、祇園祭の招待券をいただき、娘が初めてゆっくり座って鉢や山の見物をさせていただき、何と気のきいたサービスと、大変喜んでいます。また昨年の秋は、とりわけ見学が困難といわれております修学院離宮拝観の招待をいただき、主人が喜んで拝観させていただきました。ワンピース一着分くらいの寄附で、こんな結構な催しに参加したり、招待されたりして有難いことだといつも思っております。感謝の意味も込めて、今後とも寄附を続けたいと思っています。

私は自分が寺族の故か、建物の見学に事よせて、やはり一番にお掃除はどうなさっているのかしら、今の季節のお供花は如何にと、莊嚴が気になります。特に庭掃除と拭き掃除。ちょっと見馴れぬ棒雑布でも置いてありますと、引返してでも見せていただいて、参考にしています。私共は観光寺院ではありませんが、織豊の時代からの古い由緒あるお寺でもありますし、心して存続をはかるべく、日々努力精進する覚悟を新にしています。



保護財団の活動

伝統行事「芸能でつづる京の町かどの風物詩」と題し

郷土芸能の夕(第18回)を開催



秋の行事としてすっかりなじみ深くなった郷土芸能の夕を今年は、「伝統行事、芸能でつづる京の町かどの風物詩」と題して開催することとなりました。その内容は、昨年念仏芸能の中から京の三大念仏狂言を中心に紹介したのに引きつづき、今

回は念仏芸能の中からこれも京都の代表的な民俗芸能である六斎念仏をとりあげ、とくに古風で素朴な干菜系六斎、西方寺六斎念仏、芸能化し、娯楽性をもつ空也堂系六斎、西院六斎念仏とを一堂に会して紹介。また、その他には、本催にはじめて紹介する上賀茂神社の鳥相撲、北野天満宮の瑞饋祭を、これも本催にすっかりなじみ深くなった京のわらべうたや町かどの芸能をまじえて皆様方にご紹介いたします。

*とき 10月15日(土) 午後6時30分より

*ところ 京都会館第2ホール

*料金 (文化財保護協力金)

前売券：600円(市内各プレイガイドで発売)

当日券：700円

団体券(10人以上)500円

*主催 京都市

財団法人京都市文化観光資源保護財団

*構成・演出 長田 純(演劇塾長田学舎主宰)

*出演・祇園囃子・棒振囃子(壬生六斎念佛講中)

●六斎念佛

干菜系六斎(西方寺六斎念佛保存会)
空也堂系六斎(西院六斎念佛保存会)

●瑞饋祭(西之京瑞饋神輿保存会)

●鳥相撲(鳥相撲保存会重陽社)

●京のわらべうた(あいりす児童合唱団)

●町かどの芸能(演劇塾長田学舎)

※ 本催入場料を当財団会員1名につき2枚を限度に团体料金にて優遇させていただきます。については10ページ左下印刷の割引券を切りとり当日、入場券売場へご提出下さい。

○お問い合わせは、当財団事務局まで

第17回文化財特別参観

聖護院・西翁院終了報告

台風9号の影響により、時おり雨の降る中で見学をおこなった。悪天候にかかわらず50余名の参加者。

修驗宗の大本山である聖護院では、宮城執事長さまから修驗道にまつわる門跡寺院の話をいただいたあと執事長さまの案内で宸殿、書院などを見学。数々の貴重な文化財の仏像、襖絵に目がとまり、見学時間が予定よりずいぶん遅れた。つづいて黒谷西翁院では、住職さまの案内で見学。とくに重文の茶室澱看の席では熱心に住職さまの説明にききいっていた。

第18回文化財特別参観のご案内

京都洛西の静寂を残す

▷「淨住寺」と「地蔵院」△

今回は、観光客も少なく、竹林の景観をいまに伝える京都洛西の、その昔、葉室氏の菩提寺であった淨住寺と、応仁の乱以前までは26ヶ寺の末寺を有する名刹であった地蔵院の特別参観をおこなう。11月は紅葉の散歩道として静寂なところ。

◇参観日時 昭和52年11月26日(土)

午後2時(参観時間2時間)

◇対象 財団募金協力者(会員)とその家族(申込み先着60名に限る)

◇申込方法 往復はがき1人1枚に住所・氏名・年令を記入

◇申込先 〒606 京都市左京区岡崎最勝寺町京都会館内 京都市文化観光資源保護財団宛

◇参加費不用

昭和53年版文化財カレンダーを作成

一申込み先着100名の方に無料で配布いたします

●文化財カレンダーの内容

テーマ 京の墨画(水墨画)

掲載写真 天橋立図(雪舟筆・国宝・藏京都国立博物館)・四季山水図(伝蛇足筆・重文・藏真珠庵)・猿候捉月図(長谷川等伯筆・藏金地院)・雲竜(海北友松筆・重文・藏建仁寺)・達磨像(祥啓筆・重文・藏南禅寺)・瀟湘八景図(伝元信筆・重文・藏東海庵)

- 規格 B3・7枚もの（表紙含む）・6色刷
カラー・アート紙
 - 申込み方法 往復はがきに文化財カレンダーの申込み・住所・氏名（法人の場合は法人名と代表者名）を記入のうえ11月20日までに当財団事務局までお申込み下さい。申込み先着100名の方に無料（ただし、郵送料必要）で頒布いたします。申込者については、返信用はがきにより追って通知します。なお、申込み資格は当財団会員に限ります。
- （1人で1部）



今年も文化財保護強調週間（11月1日～7日）に各地ではその関係事業が多彩にくりひろげられます。

- 未公開寺院特別拝観（11月1～8日・午前9時～午後4時）主催：京都古文化保存協会
対象社寺：妙蓮寺・徳禅寺・黄梅院・玉林院・法然院・靈鑑寺・天授庵・高台寺・成就院・妙法院（玉林院7日・天授庵1・2日休み）
- 雅楽の夕 主催：京都雅楽連合会
とき 11月4日（金）午後7時
ところ 京都会館第2ホール
- 京都市埋蔵文化財研究所設立一周年記念事業を開催

——京の年中行事より——

10月22日 時代祭	御所建札門前正午出発
	平安神宮午後2時45分頃着
22日 鞍馬の火祭	松明午後7時 由岐神社
25日 抜穂祭	午前11時半 伏見稻荷大社
29日 余香祭	午後2時 北野天満宮
11月5～15日	十日夜別時念仏会 真正極楽寺
7～9日	秘仏御本尊十一面觀世音菩薩御開帳 法要 六波羅密寺
第2日曜	嵐山もみじ祭 午前10時半 嵐山渡月橋付近

- 京都市の埋蔵文化財展（10月30～11月1日
午前10時～午後4時於京都市伝統産業会館）
— 入場無料 —
- 埋蔵文化財講演会（11月1日 午後6時半
於京都会館会議場）— 入場無料 —
- 京都市遺跡地図（改訂版）発行（編集・発行：京都市・京都市埋蔵文化財研究所）
頒布料：一部1200円（送料は別）
詳しいお問い合わせは研究所（電075-842-0590）まで

編集後記

- 昨今の預金金利の引き下げは、各家庭の台所にまで大きな影響をあたえているが、全国からの暖い寄附金を基金としてその果実（利子）で文化財保護の事業をおこなっている当財団の台所も、予想される果実の大幅な収入減と文化財の保護事業費の上昇により、来年度からの事業運営が思いやられるが、事務局としては今後さらに効率的事業運営を進めることを念頭に努力しようと決意をあらたにしている。皆様方の一層のご支援、ご協力をお願いする次第です。
- 機会あるごとに文化財を火災からまもりましょうと呼びかけている中で、このたびの城南宮の火災、私たちの先祖がまもり伝えてきた文化財を灰にしないよう、個人個人が注意したいものです。

（10月～12月）

23日 筆供養	午後1時 東福寺山内正覚庵
12月7・8日 成道会法要と大根だき	午前10時 千本釈迦堂
8日 針供養	午後1時 法輪寺・針神社
9・10日 鳴滝の大根だき	午前9時 了德寺
21日 終い弘法	教王護国寺
25日 終い天神	北野天満宮
31日 おけら詣り	午後8時 八坂神社
	（大祓式 午後3時・除夜祭 午後7時）